

## 道州制アンケート

問 1 4 仮に道州制に移行した場合、大分地域はどのような姿が望ましいですか？  
こうあってほしいといった夢など、ご自由にお書き下さい。

### ◎道州制導入の影響（肯定的意見）、九州地域の発展の方向

#### ●広域地域での行政課題への対応

- 歴史的遺産、観光資源、名産品など大分県にしかない特色の保護育成は大事であるが、県単位の行政をある意味でボーダレスにするのであるから、県の特殊性より他県との平準化に注視してほしい。本来、道州制は他の道州と切磋琢磨して向上させるところに意義がある。県ごとにばらばらでは強い道州制自治は望めない。
- 道州制になったら、大分県とかいう考え方はなくしてもらいたい。
- 大分県民であるとか、中津市民であるとか、九州民？であるとかの区分けからはできるだけ自由でありたい。

#### ●住民サービスの抜本的改革、行政の効率化

- 国、県、市町村の行政の仕事で、どこの役所の仕事か判然としないようなことがなくなることを期待したい。住民から見て、この件はあそこの役所に行けば必ず解決するということが明確で、しかもその窓口は全住民の生活圏の中に必ずあるようにしてほしい。
- 大分県地域は、地域が元気で、農山村、商店街、温泉街など自分の生活圏の活性化に生き生きと取り組んでいる。市町村、道州の出先機関もそれを粛々と支援している。また地域や業態を越えた連携も自由で行政の壁はなくなっているということが望ましい。
- 市町村は合併で大きくなっているが、行政組織としての存在感は薄くなり、もっと小さな生活圏レベルの住民自治の意識が高まっている。行政による縦割りも過去のものとなっているような姿が望ましい。

#### ●個性あふれる地域、活力ある地域の実現

- 色々な県の良いところをお互いにカバーしあって、これからの子ども達に格差のない社会、我々は明るい老後が暮らせるようになればよい。
- それぞれの各県の特長を生かし、各県の得意分野を伸ばし、九州が1つになっても支障が起きないようにグローバルな九州になることが必要である。
- 中途半端な「平均的」な地域をたくさん作るのはやめてもらいたい。発展地なら発展地ならではの良さ、辺境地なら辺境地ならではの良さを見直して、良い所を伸ばして行くことが個性のある地域となり残っていくと思われる。

#### ●その他

- 他の県と表面上の対等ではなく、実質的に対等の立場であってほしい。
- 九州内での役割を考える時、他の地域（本州・四国など）との地理的な連携は果たせる

と思われる。昨今インターネットで事務的な対応はスムーズに運ぶが、それぞれの地域でおかれている必要なポジションは準備段階で十分議論すべきものとする。

### ◎道州制導入の影響（懸念）

#### ●地域間格差の拡大、地域の衰退

- 道州制に移行したら、（九州で例えて言うなら）福岡への一極集中を招き地方は衰退するような気がする。
- 県の事務が市町村に移ったからといって地方分権が進むとは思えない。  
小さい単位だからこそ自分たちの町を、県を、と住民は活性化にむけて頑張るのであって、大きい単位にまとめられたら、果たしてそこまで頑張るかどうかは疑問である。

#### ●道州制導入に対する慎重な検討の必要性

- 先を見越して、大分としてのメリットとデメリットを冷静に判断して、デメリットが少しでも多ければ、道州制に反対する立場も必要だと考える。その後、道州制に賛成するには、〇〇や△△については旧大分を中心とするという条件を数多く設けられるような、政治的駆け引きを計画する必要すらあるのではないか。大分には現状ではメリットは少ない。
- 元々大分県は、地理的にも文化的にも九州というより瀬戸内、四国との交流が深く、そのためか交通網も九州の福岡以外の県との行き来がしにくい。隣の宮崎県や熊本県に行くより山口の方が、時間がかからないこともある。九州の一員として共に行くためには、それなりに準備が必要である。経済的には大企業の誘致は魅力的だが、目先のことにとられず、大分の自然、伝統、文化、産業を大切に守り育て、食の安全が問われている現在こそ地産、地消を重要なポイントにすべきである。都会にいるワーキングプアの若者が、後継者不足に悩む農家や、職人さんと協力できる社会、荒れた、山、竹林など資源の宝庫を無駄にしない等、大分だから出来ることをじっくり考えていくべきである。

### ◎必要となる環境整備、対策など

#### ●現行制度の中での課題解決を優先

- 道州制導入よりも景気対策を優先すべきである。
- 大分県が豊かになってから道州制を考えるべきである。まずは、今の生活が安心・安全に暮らせる大分県にしてもらうことが先決である。
- 現在の行政区画によって向上発展する努力が大切である。規模が大きくなれば、格差が現れ、交通事情の悪い地域は生活にも支障が現れる。
- 道州制にしなくても、大分県の地域、地勢等は、他の県に比較し恵まれている。鹿児島県、岡山県等は天然資源はない。大分県は、自然の資源が豊富であり、近年では大きな工業地帯もできた。多くの自然資源、山林資源をもっと開発し、限界集落をなくすべきである。
- 道州制には反対である。今の状態でもそうであるが、大分県の中で、ある市が発展し、

ある市が辺境地なのは明白である。その点も解消されていないのに大きく見すぎてて分からない。

#### ●地方分権改革の着実な実行の必要性

- まずは地方分権で実力をつけた後の話である。むしろ地方分権改革推進の課題解決を優先すべきである。
- 地方分権がなされていないのに道州制に移行した場合、どうなるか心配である。  
現在、県などへの分権がなかなか進んでいないのに、道州制にしたからといって分権が進むとは考えられない。ますます過疎化が進むことが予想され、近くに店がなければ、交通インフラの整備が進んでも、交通手段のないお年寄りなどは、どうなるのか。行政は前に進むことばかりで、足元を見てないような気がする。

#### ●市町村及びその他の団体のあり方の検討

- 熊本市が政令指定都市を目指し、周辺市との合併を考えているようだが、大分も県が主導して、道州制をにらんだ市町村合併をすべきである。平成の大合併での先を見越した合併ができていない現状では、道州制導入後、明らかな他の県への弊害となりかねない。
- 県境地域の県北、日田・玖珠、竹田地域は福岡や熊本との連携が強くなり、大分市からは県庁、県警、教育庁、マスコミ関係も姿を消すか縮小する。経済のグローバル化の影響で、人口減少、活力の減退など地域力が減少し、地域経済も厳しいものが予想される。そのため、各市町は、今から大分市の経済力をあてにしないことを前提に、また、自分がリードするのではなく、農業団体、経済団体、社会団体など市民自身が生き残りをかけて自らの産業、社会のビジョンを作り、それぞれを統合した特色ある地域ビジョンを作ることが必要である。広域合併の市が多く誕生したが、さらに広域化する必要もある。

#### ●地域間格差の是正

- 地域間格差が生じないようにしてもらいたい。
- 特色ある地域の創出が必要である。地域間格差の生じない対策を考えてほしい。

#### ●住民サービスへの対応（住民サービスを低下させない）

- 県民生活が維持できることが前提である。
- 現在の行政サービスを維持しつつ、独自色を打ち出せるような地域になってほしい。

#### ●社会インフラの整備

- 九州の今までの中心的存在は、福岡・熊本となっていると思う。仮に道州制に移行した場合、今まで日の目をみない九州の真ん中に持ってくると、南九州の人々のためにも交通費や時間や経費が少なくて良い。そのためにも北九州から鹿児島まで、高速道路や新幹線を急いで整備することが必要である。
- 九州を1つとした場合、西側と比較して東側の北九州地方は道路網の整備が遅れている。この現状をクリアする整備が望ましい。また、観光資源は豊富であることから、水産業等でのグルメを組み合わせた観光エリアの開発が望ましい。

- 仮に移行した場合、大分県は端っこの地域になってしまうだろうから同等に州庁舎に行けるよう道路整備、新幹線導入などの交通網の整備を行って九州のベッドタウン化で生き残って欲しい。
- 州都は福岡か熊本と思われるので、道路交通の整備が必要である。予算配分を中央に偏らないように公平にする。産業開発、企業誘致など地域代表の意見を尊重して行うことが必要である。専門委員などの選出には庶民層からの選出を心がけないと庶民の声が届かない行政になる。
- 交通網を整備して、いつでも県外で医療、文化、教育など受けられることが必要である。
- 高齢化社会が進む中で、車に頼らない公共交通機関を中心とした交通インフラの整備が必要である。
- 港湾の整備を進め、東アジアを中心とした国際的な輸出基地とする。

## ●大分地域の特色を活かす、磨く

### ①総論

- 県の特色を一層高め、アピールして行ってほしい。
- 他県と異なる特色を出さなければ、特産物や名所だけではだめである。  
環境、教育、福祉、観光、商業など

### ②豊かな天然自然、観光

- 自然に恵まれた大分県は農林水産業と観光に重きを置き、癒される県を目標に進めてもらいたい。
- 大分県の特色ある産物、観光などは他県に負けない発信をすべきである。
- 立地条件を活かした観光面に力を入れる。
- 観光立地の利点を十二分に活用させたい。
- 観光資源及び第一次産業、工業立県をアピールするとともに確立を図る。
- 九州の観光県とするため、今から整備、宣伝していくこと（国東半島、耶馬溪、日田、別府温泉、臼杵、佐伯、久住連山、大吊り橋など）。
- 別府を中心とした九州の保養地として発展する。阿蘇、久住、九重を一体化した九州の大自然を活かす。
- 安心・安全な食の生産県（提供県）としての姿を示し、農林水産業と温泉を中心とした観光に力点を置く。
- 大分は大自然と観光が素晴らしい県であることから、農業（しいたけ、畜産）、漁業を盛んにしていけばよい。
- 温泉、かぼす、しいたけ、大分コンビナート、一村一品など、大分の既存ブランドに磨きをかけていくことが望ましい。
- 休耕田畑を利用しての地産地消を促進する。観光名所巡りのルートを作り、道州内の観光客の増員を図る。
- 大分県の宝である温泉、豊かな自然、山海の恵まれた食材をしっかりとPRして観光地域をもり立てていくことが必要。自然環境に恵まれた大分県地域は、子育てや老後には良い場所である。都会の人達に大分県のすばらしさをPRして人口増加に繋げていく。

- 大分県地域の特色を売りに都会や外国からの観光客を呼び込む。自然豊かな景観や温泉、海産物や農産物のおいしい食べ物でおもてなしをし、大分ファンを増やし大分を自分の故郷のように過ごしてもらおう地域にする。
- 現在持っている特色を活かした地域の発展・研究を期待する。例えば、温泉や自然を生かしたリゾート地域、植林や竹林を生かした林産業地域、宇佐神宮や石橋を中心にした歴史を見たり、体験できる地域、製鉄、造船、化学工業を中心とした二次産業地域など。
- 大分県は自然と環境、また温泉に恵まれているので、その特色を十分に活かし、久住高原等豊かな自然に囲まれた内陸部には景観を利用した観光施設、また観光農園等の商業施設、また頭脳を使うソフト産業の誘致等環境に優れた地域づくり、また農業の集約等で近代化された村づくりに力を入れて欲しい。海上交通に適した海岸地域には工場誘致、また、豊かな漁場づくりに力を入れて欲しい。

### ③農業

- 現九州で話し合い、自分の県は発展して行くのに何が足りないかを議論し、現状で遅れている部分にいち早く対応する。農業などに多く助成し、大分県の食糧自給率70%以上を目指してほしい。
- それぞれの県の特色を更に伸ばすようにし、大分県地域は観光、工業が考えられる。農業は、食料面、地域の防災面等から全地域で保護育成していく必要がある。
- 阿蘇、久住、飯田地域の高原地域を農業の生産基地として整備する。

### ④環境

- 確固たる特色を維持しつつ、柔軟な姿勢で常に何かを発信し、州のリーダー的存在であってほしい。人に優しい環境と政策を第一に模範としてアピールし続けてほしい。
- 大分県は多くの山林があるが、山が荒れ放題で、樹林に元気がない。木に元気がないので、降ってきた雨を十分に保水しきれない、CO<sub>2</sub>を十分に吸収できないなど、人間生活に悪影響がある。中山間地域に「自然環境保護局」を設置して山に関わり、自然と人間が一体となって良き地域社会を実現することが必要と考える。

### ⑤文化

- 大分県地域独自の文化の発展が望ましい。道州に頼るのではなく、各自治体が力をつけるべきである。
- 大分の文化、文化財等を守り育てることが必要である。

### ⑥教育・人材の育成

- ここに住む自分たちがまず大分を理解し自慢できるようにならないと。そのための教育、特に小学校からの「一次産業の大切さを学び、地域愛を育てる」教育が大切である。
- 社会福祉対策、医療体制の充実、防災体制の強化、交通インフラの整備、農林水産業や観光などの県の地域の特色を活かした政策の遂行、教育の振興、特に児童・生徒の学力向上対策を行ってほしい。

- 新産都を中心とした経済力の増進、農林漁業の一次産業にも後継者を育成できるような基盤整備と技術経営革新、流通ルートの開発、折衝、助成を行い、温泉を中心にした観光振興を図る。特に21世紀に向けた国際競争力に堪えうる産業を目指すことが必要であり、一般教育水準の向上と産業振興、技術革新のためにも産業全ての面に、科学技術教育を主要プロジェクトにすることが必要である。
- 生活しやすい環境整備、周辺部の道路の整備、医療、福祉施設の整備、それに何よりもこれらに携わる人々の教育を是非行って頂きたい。
- 不正のない教育に力を入れ、財政も投入し、人材の質を高め、子ども達の未来に投資をすることによって、大分が新時代の教育県となることを切望する。
- 都市部は都市部で、農村部(林業・水産業を含む)は農村部で将来に希望が持てるような地域にして欲しい。そのためには県を始め、市町村職員のみなさんにまず地域リーダーになってもらうのが一番早道だと思う。人材も情報も集まっている。
- 公務員の意識改革が最優先である。

#### ⑦その他

- 九州が1つになることは、古代太宰府と同様に、アジアに向かった地域という特色が強くなってくると考えられる。大分は瀬戸内海に通じる古代から近世に至る都との窓口であったが、現在は直接関東関西につながっていると思われる。したがって、大分県のおかれる地域的特色は、農業、観光が中心になると予想される。福岡が九州道の中心となることは大方の予想である。今一度、大分の産物、人、地域の特色の点検が必要である。
- 大分は4つに分けて経済発展を考える。
  - ①県北～工業地（働く人が増えることを望んでいる。）
  - ②県中央～別府・大分（温泉）、水産
  - ③県西～観光（いやし）（食）、農業、林業
  - ④県南～観光（食）、農業、水産、林業

#### ●大分の良さを活かした住みやすい地域づくり

##### ①大分らしさ

- 大分県民の多くが「住みやすくなった」と納得できるものにしてほしい。
- 全ての面で、現在の大分県の良さを失わないような道州制の移行を望む。
- 大分らしさをなくさないこと。
- 自然が適度にあり、都会のようにごみごみしておらず、大分市内でも大変住みやすい。店もほどほどにあり、観光スポットもそれなりにあるので、大分に住んで31年になるが、大分を出たいと思ったことはない。そういった大分の良さをなくさないでほしい。
- 道州制に移行することで、よくも悪くも産業や行政が各地に分散されてどこも同じような規模の街ができてしまうような気がする。大分県の良いところは、のんびりしているところだと思う。交通渋滞や買い物等で長時間待つこともない。すでに手にしている大分の良さを残しつつ、都会の便利さなどを取り入れることは可能と考えられる。
- 大分県は食べ物も美味しいし、温泉もあるし、自然もたくさん残っているので、そうい

うものを活かした地域づくりを進めていってほしい。

## ②誇りを持てる地域づくり

- 大分県の持っている地域資源（自然・温泉・食べ物）をこれまで以上に活用し、九州という広域圏の中で、その役割を発揮し、基幹産業である農業やツーリズム（観光）をこれまで以上に活気づける。また、企業誘致も引き続き行い、雇用の場が拡大することで、若者が生活できる地域として整備する。「住んでよし、訪れてよし」の環境を整え、地域を活性化することで、大分っ子が故郷に誇りを持てるようにする。
- 大分は住みやすく、食べ物は新鮮で美味しい。きれいな山があり、海あり、川あり、温泉ありと恵まれている。この与えられた自然の恵みを大切に守り、育て、高齢になったら大分に住みたいといわれるような穏やかでゆったりとした街づくりを進めてもらいたい。住みよい街はそこに住む人たちが自らの手で作り上げる努力をし、これを行政が積極的に支援するという形が望ましい。これにより、自分たちの街に誇りが持て、安全・安心な街が出来る。行政は行政として、県民、市民の目線であらゆる施策を推進するようなスリムで温かい行政を進めて頂きたい。このことが実現すれば、若者の県外への流出も減り、高齢化も防げる、活力ある大分県、誰もが住んでみたい大分県になると思う。子どもも、働き盛りの年代も、老人もみんなが大切にされる社会、安心して暮らせる街となしてほしい。

## ③互いに支え合える地域づくり

- 次世代の子どもたちが『ふるさとで暮らしたい』と思えるような、経済的に自立し自然環境が保たれた大分であってほしい。今後とも高齢化・少子化が進んでもこころ豊かで支え合える地域であって欲しい。
- 高齢化した人々、独居の人が住み慣れた地で最後まで尊厳を持って生活できるようにすることが必要であり、そんな大分になるようにするための道州制を期待したい。
- 税金を無駄遣いしない。個人格差、地域格差をなくし、県民が安心して暮らせる社会にする。農業、漁業を活発にし、食品は地産地消を増やし、安全安心して食べられるようにする。収入の安定を図り、県民一人ひとりが身の丈にあった生活が出来、ゆとりある人生が送れる県にする。  
高齢者が苦しまない、若い人が地場企業に勤められるようにし、医療にやさしい県にし、お互いが助け合う県とする。
- 過疎地域とならないための交通整備はもとより、人口の流出を防ぐ意味でも産業の充実、企業の誘致だけではなく、農林水産業の活性化による地域力の強化、親から子への文化の継承ができる生活基盤の確立ができている地域であってほしい。

問 1 5 今後、道州制について、ご意見やお知りになりたいこと、情報提供をする場合にどのような手段・方法が望ましいかなど、ご自由にお書き下さい。

◎情報提供の手段・方法

●媒体

- テレビや新聞など
- テレビでの討論会の実施など
- 県の広報誌
- 市報、各市町村の広報誌
- メルマガ
- パンフレット
- 県、市町村のホームページ、モニター通信での配信
- 携帯電話やインターネットでの情報提供
- 集会所で説明会の開催
- シンポジウム
- 道州制の冊子を地域に配布

●幅広い議論喚起の必要性

- 県と市が説明会やシンポジウムを開催し、市民の理解を深めていく、その上で、アンケートを取り、分析を進めることが良いと思われる。
- もっと県市の広報などでアピールなり、新聞で道州制を考えると何かの記事をシリーズで連載するなど、住民に考えさせる機会をつくってほしい。
- 公民館単位で説明会を持ち、住民に趣旨を説明していくことが大切である。
- 情報提供する場を設け、みんなで考える風潮を醸成するべき
- 道州制については、より多くの人々、立場の違う人々が議論に参加できるような機会を作ってほしい。議論の過程を情報提供してほしい。
- 研究会を各地域で開催し、関心を高める。
- 地域ごとに職員の方に来てもらい、直接対話することが望ましい。
- 県民から道州制の意見を募集する。
- 中学生程度の子ども達にシュミレーションをして体験してもらおう。  
行政区の方々に体験シュミレーションを行う。

●住民意思の尊重

- 市町村合併のように地域格差を助長するものではないかと心配になる。一長一短はあると思うが、住民の意思を十分尊重してほしい。



## ◎情報提供の内容

### ●メリット・デメリット

- 今の県単位と具体的に暮らしがどう変わるのか、良くなる点、悪くなる点を明確に知らせてほしい。単なる県合併ではないことを知らしめてほしい。
- メリット・デメリットについて知りたい。
- 道州制のメリット・デメリットを明らかにした上で、各市町村の市報や大分合同新聞の特集、道州制の賛否を国勢調査のように一軒一軒回るなどする。
- テレビでわかりやすく利点と道州制移行に係る費用を知りたい。住民も参加できないか。

### ●道州制議論の状況・大分県の考え方

- テレビ、ラジオ、新聞の広告欄を利用して、県は道州制についてどのように対応しようとしているのか、作業はどのようなことをしているのかを適宜県民に知らせてほしい。また、地方での意見交換会なども情報提供の場となると考えられる。
- 大分県としてのまとまった考えを正確に県民に伝えてほしい。
- 世界で模範となるような道州制のところを知りたい。

## ◎自由意見

- 今後注目して勉強していきたい。
- 地域住民の自治の衰退や、道州の中心地域と周辺地域の格差の拡大による地域の衰退などデメリットをどうすれば取り除いていけるか解決策を練ってほしい。各土地柄が混ざり合いそうな気もする。
- 無駄を省き、効率の良い行政のあり方を目指すのであれば、今までの無駄を改善し、効率を上げれば良く、制度や政策をあたること自体が無駄な議論ではないか。限界集落の生活保障や道路行政等、我々が生活できることがどう保障してくれるのかが見えない。税金を払う一人ひとりの生活保証と社会の仕組みにどのような効果を生むかの説得力が感じられない。大都会に集中した矛盾を地方切り捨てで合理化しようとしているとしか思えない。  
人口の減少した地域では、学校統廃合が進み、働く場所を求めて人口流出で、ますます過疎化が進行している。特に、農林業の高年齢化と過疎化は、限界集落どころでなく、地域の消滅に貧している。この現実が道州制により救われるとは思えない。市町村の統廃合が進んだ今でさえ、行政の末端では、目の行き届かない現実が派生している。
- 現状でも行政サービスが細やかであるとは思えない。広域になれば、もっとサービスが雑になるのではないか。道州制より、県単位の施策の充実を図ることが先決ではないか。